

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 17 年 11 月 24 日 (2005.11.24)

【公表番号】特表 2001-518118(P2001-518118A)

【公表日】平成 13 年 10 月 9 日 (2001.10.9)

【出願番号】特願平 10-545973

【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/7076

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 37/08

A 6 1 P 43/00

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/7076

A 6 1 P 11/06

A 6 1 P 37/08

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 3 月 18 日 (2005.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手続補正書

平成17年3月18日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第545973号

2. 発明の名称

ヒト肥満細胞活性化のモジュレーション

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 アメリカ合衆国 ペンシルバニア州 19041-1020

ハバフォード ダートマス レーン 24

名 称 ダスカ サイエンティフィック カンパニー

4. 代理人

〒105-0004

住 所 東京都港区新橋5丁目16番5号

スプリュー新橋ビル (電話3459-8309)

氏 名 (7563) 弁理士 倉 橋 暎



5. 補正の対象

(1) 明細書の請求の範囲・発明の詳細な説明の欄

6. 補正の内容

(一)「請求の範囲」を別紙の通りに補正する。

「別紙の通り」

(二)「発明の詳細な説明」を次のように補正する。

(1) 明細書の第5頁第23行の「免疫反応においてる組織肥満細胞」を「免疫反応における組織肥満細胞」に訂正する。

(2) 明細書の第7頁第19行～第21行の「P2-プリノセプター（好適にはP2Y-プリノセプター・リガンド、最も好適にはP2Y₁-またはP2Y₂-プリノセプター・リガンド）を含む試薬とを含んでなる混合物を形成し」を、「P2-プリノセプター（好適にはP2Y-プリノセプター、最も好適にはP2Y₁-またはP2Y₂-プリノセプター）を含む試薬とを含んでなる混合物を形成し」に訂正する。

(3) 明細書第18頁第21行～第22行の「候補作用物質のP2Y₁-プリノセプターへの離岸度結合阻害能力を試験するために」を「候補作用物質のP2Y₁-プリノセプターへのリガンド結合阻害能力を試験するために」に訂正する。

(別紙)

請求の範囲

1. 刺激されたヒト肥満細胞上の P2-プリノセプターへの ATP の結合を阻害する作用物質の、前記肥満細胞からのメディエーターの遊離を阻害するための薬剤を調製するための使用。

2. 前記肥満細胞からのメディエーターの望ましくない遊離を特徴とする疾患に対してヒト対象を処置するための薬剤を調製するための請求項 1 に記載の作用物質の使用。

3. 前記メディエーターは、ヒスタミンである請求項 1 又は 2 に記載の作用物質の使用。

4. 前記疾患は、気管支狭窄を特徴とするものである請求項 3 の作用物質の使用。

5. 前記疾患は、アレルギー、喘息又は炎症性肺疾患である請求項 4 に記載の作用物質の使用。

6. 前記作用物質は、前記肥満細胞上の P2Y-プリノセプターへの ATP の結合を阻害する請求項 1～5 のいずれかの項に記載の作用物質の使用。

7. 刺激されたヒト肥満細胞からのメディエーターの遊離を阻害するのに有用な化合物を選択するための方法であって、

刺激されたヒト肥満細胞を、P2Y-プリノセプターへの ATP の結合の阻害剤である候補化合物と接触させ、

前記細胞を、1 以上のメディエーターの遊離について試験する、ことを含むことを特徴とする前記方法。

8. 刺激された肥満細胞からのメディエーターの望ましくない遊離を特徴とする疾患に対してヒト対象を処置するための作用物質の有効性を *in vitro* で測定するための方法であって、

前記作用物質と、P2Y-プリノセプターリガンドと、P2Y-プリノセプターを含む試薬と、を含んでなる混合物を形成し、

前記混合物を、前記レセプターへのリガンド結合の前記作用物質による阻害に

ついて試験する、

ことを含むことを特徴とする前記方法。

9. 前記メディエーターは、ヒスタミンである請求項7又は8の方法。